

会議結果報告書

平成29年 4月24日

会議の名称	志木市廃棄物減量化資源化等推進審議会（第1回）
開催日時	平成29年 4月20日（木）10時00分～11時50分
開催場所	市役所4階 第三委員会室
出席委員	鈴木勇吉委員、細田恒男委員、岩下隆委員、園田真見子委員、木下里美委員、中園玉江委員、齋藤美也子委員、大村相哲委員 (計8人)
欠席委員	近藤豊委員 (計1人)
委員以外出席者	志木市長 香川武文
議題	委嘱状交付 市長あいさつ（志木市の現状について） 議題 1 会長及び副会長の選任 2 その他
結果	会長 鈴木勇吉氏、副会長 園田真見子氏に決定。 ごみ減量対策として、食べ残しゼロや食品ロスについて、及び学校給食から堆肥作成していることの周知を図る。 今後も方策（伝達方法も含む）を検討する。 (傍聴者0人)
事務局職員	高橋市民生活部長、末永課長、樋山副課長、田中主査、古門主任

審議内容の記録（審議経過、結論等）

1. 開 会 司会：末永課長
2. 委嘱状交付
3. 市長あいさつ（志木の現状について）
4. 議題

- 1 会長及び副会長の選任

会長選出について、委員から推薦により、満場一致で鈴木勇吉委員を会長に選出。

（新会長あいさつ）

副会長の選出について、委員から推薦により、満場一致で園田真見子委員を副会長に選出。

（新副会長あいさつ）

- 2 その他

事務局：一般廃棄物の減量対策として、前回会議時に新たな一手はないものかを委員各位に問いかけを行ったが、よい手はないものか。

委員：食品ロスの話や環境市民会議で行っている生ごみの水切りを啓発していることについて、市民に対してもう少し周知するべきではないか。

委員：食品ロスについて、5年前学校給食の残渣が多かったため、可燃ごみたい肥化業者の協力を得て、また有識者や専門家と協力し、志木小学校で捨てられた給食の栄養量を測定した。その中から、運動している児童の食べ残しは少なく、汁物は多く残るという結果が分かり、家庭での協力が不可欠であることが分かった。これらの調査について、今年論文化し、食育学会でその論文が掲載された。

学校給食の残渣1週間分で1人分の給食になることが分かった。これらは小学生向けの副読本としての作成を行った。

委員：環境市民会議では、年2回クリーン作戦実施日は、志木市の環境デーでもあるため、2～3年前から同日、参加者にゴミの水切りPRを行っている。流し台を用意し、スポンジを生ごみに見立て、市で用意した「水切り器」で水切り体験をしていただき、ごみの分別も必要だが、水切りも重要とすることを啓発してきた。

今年からは環境クイズに変更する予定。

会長：本審議会では、平成25年から平成34年度までの10年間の志木市廃棄物処理基本計画を策定している。策定時は、マイバックやごみの有料化についても検討したが、有料化については本審議会では反対をした。ごみの状況は毎年変化している。福島や熊本など被災地へ私も出向き見てきたが、災害時のごみは

分別もできず、一緒になってしまう。被災地では、食品よりトイレをほしがっていた。

廃棄物処理法では、廃棄物の定義を行う中で、「放射性物質及びこれによって汚染された物を除く。」としている。また、産業廃棄物以外が一般廃棄物とされているが、産廃は県の許可が必要となるが、災害時収集にあたるのは市町村であり、矛盾が生じてきている。

現在の法律が制定された当時は、東京オリンピックのころで、一時しのぎ的に現行法を策定した。現在ではこの法律もすぐわな時代になってきている。現在、環境省では法の見直しを始め出している。

志木市では4Rの推進を決めているが、実行は難しい。現在、市の計画は10年の半分に来ており、策定時と状況が変化してきている。ごみ処理は何でもやればよいのではなく、何を行うべきかを検討する必要がある。

事務局：議会における委員会でも、ごみに関する質問が増えてきている。ごみ減量についての具体的策の意見を頂きたい。

会 長：委員会は傍聴できるのか。

事務局：傍聴はできるが、意見を述べることはできない。1日1人当たりのごみ排出量は減っているため取り組みは間違っていないが、新たな一手がほしい。

委 員：新規事業の落ち葉銀行について、詳細は決定したか。

事務局：詳細はまだ決定していないが、一般家庭から出るものに限定する。事業を一緒に実施していただく事業所と細かいことは詰めていく。

会 長：皆ができることを行わないといけない。

委 員：現在実施している学校給食残渣から作る堆肥のPRをしたらどうか。

委 員：市で掲げている「4R」を分解して検討したらどうか。
マイバックはリユース、落ち葉銀行はリサイクルなど。

委 員：家庭から出るごみは、どこから出るのが一番多いかを考えると、老々世帯では食は細かいし、多いのは子供のいる世帯だと思う。

委 員：学校給食で食べ残したものを、各家庭に持ち帰り、家族で話し合ってもらったらどうか。先生と親に許可を得られればよいのではないか。

委 員：衛生面に問題が残らないか。

事務局：食べ残しゼロや食品ロスについて、学校に取り組んでいただけるよう働きかけを行う。学校給食から堆肥を作成していることも周知を図る。

委 員：スーパーなどで実施しているリサイクルの周知はいかがか。

委 員：リサイクルはしているが、賞味期限切れや形の悪い野菜などは廃棄されるため廃棄物が多い。リサイクルだけを取り上げるのはよくない。

会 長：具体的な策をどうするか本審議会で検討すべき。日常的に何かあったら連絡がほしい。

委 員：市の携帯サイトなどで4RをPRしたらいかがか。

委 員：余談ではあるが、災害時、仮設トイレは1，2日しか有効ではない。仮設トイレの場所まで車が入っていけない。浄化槽のトイレが一番良い。発電機ひとつで稼働し、1回の用足しあたりバケツ1杯の水で済む。

会 長：皆さんに伝達方法も含め、また検討してもらおう。事務局でも検討してほしい。

事務局：これまでの意見も検討とする。

会 長：以上なければ終了とする。

以上